

1996

公共建築の外部空間デザインマニュアル

大 阪 市

An aerial photograph of a city, likely Tokyo, showing a dense urban landscape with numerous skyscrapers and buildings. A wide river flows through the city, and a large highway interchange with multiple overpasses is visible. The sky is blue with some clouds.

公共建築の外部空間デザインマニュアル

Design

INDEX

はじめに～公共施設のアメニティアップの意義

- 1. 外部空間設計の基本的な考え方 1
- 2. 設計の進め方 2
- 3. 外部の方針とデザインメニュー 4

I. オープンスペースの確保

- A. 広場を確保する 5
- B. 人にやさしい動線を確保する 7
- C. 緑量を確保する 8

II. 境界部のデザイン

- D. 歩行者空間を確保する 9
- E. 出入口を演出する 10
- F. 境界部に植栽をほどこす 11
- G. 高低差の処理を工夫する 13
- H. 必要なフェンス等はデザインを工夫する 14

III. 附帯施設の処理

- I. 駐車場をデザインする 16
- J. 駐輪場をデザインする 17
- K. 設備関連施設をデザインする 18

IV. さまざまなデザイン要素

- L. 植栽 19
- M. 舗装 22
- N. 屋外造形物 23
- O. ストリートファニチュア 24
- P. 水 26
- Q. 花 27

はじめに

公共施設のアメニティアップの意義

公共施設（市設建築物）は市内全域に広く分布し、また立地的にも地域の重要な場所に位置するものが数多くあり、その存在が地域のイメージを大きく左右するといえる。

大阪市では、「アメニティアップ計画」として、公共施設を地域のアメニティ資源と位置づけ、そのアメニティアップを図ることにより、地域のまちなみ向上をリードしながら公共施設全体のイメージの向上を図るとともに、民間施設への啓発・誘導力の強化に資することを考えることとした。

アメニティアップ計画では、公共施設が担うべき役割を次のように考える。

- ①景観向上の先導役
- ②調和のとれたまちなみづくりを誘導
- ③道路などとの一体化・連続化による
快適な歩行者空間の創造
- ④緑の創出・充実

本マニュアルは、アメニティアップ計画具体化の第一着手として、市設建築物の外部空間、特に敷地境界近傍の境界領域を対象とした空間整備の手法についてまとめたものである。

今後、市設建築物の外部空間整備にあたっては、本マニュアルを基本に計画を行うものとする。



公共施設の境界領域の改善により、地域に親しまれ地域のイメージ向上に貢献できる空間設備も可能である。

都市空間の各領域



外部空間設計の基本コンセプト

公共建築は、道路や公園等とともに都市空間を構成する主要な施設であり、地域の活性化や良好な地域景観の創出等、まちの魅力を高める上でその役割は非常に重要である。

さらに、公共建築は、市民生活の基盤となり、また市民の豊かな文化生活を確保するための市民のための施設であることを念頭におき、市民に開かれ、さらに地域に開かれた施設とすることが大切である。

そのため、本市の公共建築物の外部空間は、原則として次の基本コンセプトに基づき、各施設担当局と協議し整備する。

基本コンセプト

1. 建物入口部分や敷地コーナー部分等、敷地内にはできるだけ市民が自由に通行でき、休み、憩えるオープンな空間を設ける。
2. 道路と接する境界部分に歩道が設置されていない場合は、原則として敷地内に歩道等市民が安全に歩行できる空間を設ける。
3. 公共空間（道路、公園等）と接続する敷地境界は原則として公共空間とオープンに接することとし、塀等は設置しない。
ただし、やむを得ず塀等を設置する場合には、植栽等を設けて境界からできるだけ控えた位置に設置する、または透過性のあるものとする。
4. みどり豊かな外部空間とする。
5. 外部空間の設計にあたっては、周辺環境との調和に努め、賑わいのある場となるよう質の高い設計とし、使用する材料も耐久性のある品質、デザインの優れたものとする。



① 周辺環境の特性を読みとり、設計に反映させる。

- 周辺地域の土地利用・景観^{*1}、建物用途^{*2}、景観の状況を充分に読みとり、地域と調和したデザインをほどこす。
- 現状において周辺環境がよくない場所では、当該敷地のデザインによって環境の質を高めていくような先導的役割が要請される。

② 周囲のまちなみや周辺敷地の外部空間との関係を考慮する。

- 建築物とその外部空間がまちなみに埋め込まれることによって、新たなまちなみが形成される。周囲のまちなみの状況に応じて、どのようなデザインがふさわしいかを検討する。
- 隣接敷地の外部空間や前面道路、さらには、道向かいの敷地の外部空間の連続性を考慮し、一体的な配置やデザインをほどこす。
- 周辺との一体化のためには、とりわけ敷地境界部のデザインが重要である。周辺敷地や前面道路との境界はできるだけオープンにし、また、デザイン要素も共通のものを使用することによって一体感をだすことができる。

③ 建築物の配置と一体的にデザインする。

- 建築物の配置によって外部空間の平面構成が決まり、その意味では、建築物の配置計画は外部空間デザインの第一歩である。
- 建築物の機能によって、外部空間の意味合いも決まってくる。玄関周りのエントランス空間、資材搬入等のサービスヤードなどが、建築物の設計によって定まる。こうした建築物の機能と外部空間デザインを同時に検討することによって、整合性のとれたデザインが可能となる。
- 建築物への誘導、また、周辺道路の通行状況によって、自動車や歩行者の動線が決まる。外部空間が快適に利用できるよう、動線計画も充分に考慮する。

*1 市街地景

土地利用、雰囲気、景観等については、大阪市景観形成基本計画において市街地景として次のようにまとめられている。

低層住宅地景、中高層住宅地景、商業地景、業務地景、業務地裏通り景、住工混在地景、工業地景、在来港湾地景

*2 建物用途

公共施設の用途は概ね、以下に大別される。

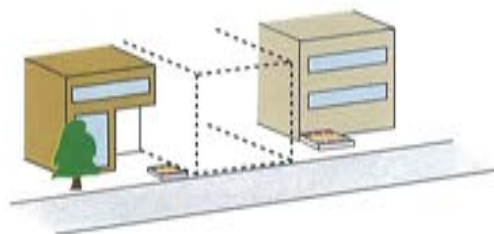
市民利用

学校等

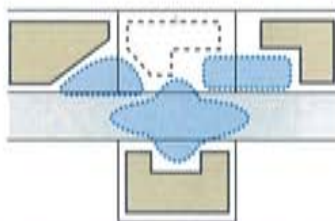
業務施設等

比較的特定された利用者に限られたものから、不特定の人々に利用されるものまで利用者への配慮が必要である。

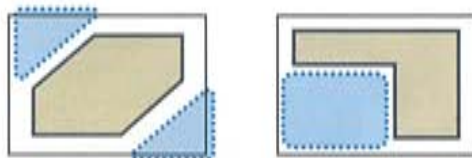
周囲のまちなみとの関係を考慮する



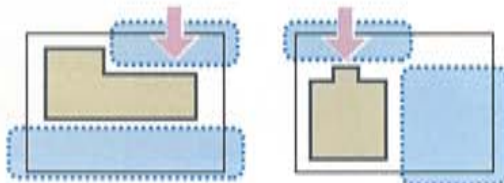
周辺の外部空間との関係を考慮する



建築物の配置や形態が外部空間の形態を決める



建築物の機能が外部空間の意味合いを決める



④外部空間全体をデザインする

- 植栽やサイン、ストリートファニチュア等外部空間はさまざまな要素によって構成される。これらが個々ばらばらにデザインされることなく、空間全体をデザインすることを常にこころがける。
- 空間にたくさんの要素を持ち込むと、デザインに混乱をきたしやすく、また、窮屈な感じとなりやすい。空間の広さにゆとりがない場合には、特に注意が必要である。
- サイン類の統合化、ベンチとしても利用可能な植樹、電柱と照明の共架等、機能の複合化によって要素を整理することも検討する。
- 供用開始後に新たにサイン等が設置されることもでてくるが、そうした場合には設計時の全体デザインを十分に考慮する。本来はあとから付加されるものがないように、機能やデザインについて設計段階から十分に検討しておくことが大切である。

⑤外部空間にもたせる機能を考察する

- 外部空間の機能を十分に考察し、何のために外部空間をデザインするのか、を明確にする。周辺環境や当該敷地、建築用途等の特性を考慮し、その場にふさわしいデザインを検討する。
- 休息スペース等人々の活動を誘発するデザインを行う場合には、活動特性を十分に検討し、使い勝手がよく快適な空間をデザインする。

⑥都市景観とデザイン要素

- オープンスペースのデザイン要素は、建物やその場所の雰囲気等、都市景観に配慮したものでなくてはならない。
- デザイン要素は、後から付加されるものではなく、建築計画の当初から並行して充分検討していくべき性質のものである。



A.広場を確保する

- A-1 境界を設けない
- A-2 透過性の高い境界処理
- A-3 アクセントを持たせる
- A-4 デザイン要素の平行配置
- A-5 休憩コーナーを設ける
- A-6 庭園を設ける
- A-7 遊び場を設ける

B.人にやさしい動線を確保する

- B-1 段差をなくす
- B-2 階段とスロープの一体化
- B-3 人の動線の確保

C.緑量を確保する

- C-1 シンボリックな植栽
- C-2 透過性の高い植栽
- C-3 緑量感のある植栽

D.歩行者空間を確保する

- D-1 人の通行レーンの確保
- D-2 せまい歩道にゆとりを
- D-3 歩道状公開空地との連続

E.出入口を演出する

- E-1 門扉のセットバック
- E-2 筋違いの技法
- E-3 特色のあるエントランス

F.境界部に植栽をほどこす

- F-1 透過性の高い処理(動線+視線)
- F-2 透過性の高い処理(視線のみ)
- F-3 オープンに見せる
- F-4 生垣とかん木・草花
- F-5 生垣と高木
- F-6 緑量と遮蔽効果
- F-7 街路樹等との調和

G.高低差の処理を工夫する

- G-1 土留と緩斜面による場合
- G-2 多段型植栽スペースの確保
- G-3 擁壁による場合

H.必要なフェンス等はデザインを工夫する

- H-1 デザインされたフェンス
- H-2 フェンスを意識させない植栽
- H-3 セットバックによる植栽
- H-4 塀とフェンスの組み合わせ
- H-5 高尺フェンスの修景(1)
- H-6 高尺フェンスの修景(2)

I.駐車場をデザインする

- I-1 植栽による遮蔽
- I-2 空間に潤いを
- I-3 広場としてのデザイン

J.駐輪場をデザインする

- J-1 建物との一体化
- J-2 上屋のデザイン
- J-3 植栽による囲み

K.設備関連施設をデザインする

- K-1 モニュメント化
- K-2 デザイン化
- K-3 植栽との調和

L.植栽

- L-1 スペースと植栽(高木あるいは植込地)
- L-2 スペースと植栽(中木)
- L-3 スペースと植栽(かん木)
- L-4 スペースと植栽(地被)
- L-5 スペースと植栽(生垣)
- L-6 スペースと植栽(つる性植物等)
- L-7 整形樹形
- L-8 人工地盤上の植栽
- L-9 道路空間との親和性
- L-10 生育環境と樹木特性

M.舗装

- M-1 建物のデザインとの調和
- M-2 舗装の連続性
- M-3 楽しい舗装

N.屋外造形物

- N-1 シンボル化
- N-2 ファニチュア化
- N-3 楽しい造形物

O.ストリートファニチュア

- O-1 複合化
- O-2 デザインの調和と個性化
- O-3 サイン
- O-4 広報板の統合
- O-5 照明
- O-6 車止
- O-7 ベンチ

P.水

- P-1 動きのある水
- P-2 モニュメント化
- P-3 楽しい水

Q.花

- Q-1 花壇
- Q-2 プランター
- Q-3 ハンギング・窓辺

平面構成図

